

火山調査研究推進本部政策委員会総合基本施策・調査観測計画部会
第 5 回調査観測計画検討分科会における
「基盤的な調査観測に関する調査観測計画の要点（素案）」に関する主な意見

火山調査研究推進本部政策委員会総合基本施策・調査観測計画部会第 5 回調査観測計画検討分科会における委員からの主な意見において、「基盤的な調査観測の要点（素案）」に関連するものは以下のとおりである。要点の各項目（網かけ部分）に対する第 5 回分科会での意見を整理しリスト化した。

(1) 陸上火山の基盤的な調査観測

(1) ー 1 地震観測

3) 今後の計画

- ・ 想定火口 15km 以内の範囲に 6 ～ 8 点の観測点を方位分布に考慮して配置するのが理想であり、網羅的に各火山の地震活動の調査を行ったうえで、震源決定精度等を考慮して観測点配置の方針を検討する場が必要。

- ・ 早急にこの体制を作るというニュアンスが必要
(上記意見への考え方)
→ 早急に進める認識はあるが、長期的な視点での火山活動の整理等、段階的に進めていく必要がある

(1) ー 2 地殻変動観測

3) 今後の計画

- ・ 地殻変動源のより高精度な推定には方位と距離に偏りが無い条件で 4 点以上の傾斜観測点を整備することが理想であり、網羅的に各火山の地殻変動の調査を行ったうえで、観測点配置の方針を検討する場が必要

- ・ 早急にこの体制を作るというニュアンスが必要
(上記意見への考え方)
→ 早急に進める認識はあるが、長期的な視点での火山活動の整理等、段階的に進めていく必要がある

- ・ 大学と他研究機関等の常設観測点のデータの活用による、マグマだまり以浅での地殻変動の調査観測の高精度化を期待

- ・ 基盤観測でも浅部活動をオールフェイズで把握することを加えてはどうか

(上記への意見)

→気象庁以外の関係機関も火口近傍での観測を実施することを表現してはどうか

→防災科研 V-net はオールフェイズの考え方であり、火口から 3-12km に設置することが基本

(上記意見への考え方)

→火口近傍に気象庁常時観測体制がある。また、防災科研はオールフェイズの考え方を基本とするのは変わらない。ただ、考慮すべき噴火様式等と設置の実現性によっては、火口の比較的近くに観測点を新設することもある。

※資料 計 6 - (4) 機動的な調査観測に関する調査観測計画の要点(案)を参照

・「調査観測の高精度化を期待」を「調査観測の高精度化を支援」としてはどうか
(上記意見への考え方)

→どこが主体となる支援なのか分からない。また、火山本部としても予算措置は難しい状況

(1) — 3 その他

・防災科学技術研究所、気象庁、国土地理院は、個別の火山においてボアホール型を含む常時観測点を整備、更新するため、連絡調整会議等を設置し、適切な配置の検討や整備の調整を行うとともに、対象火山に観測点を設置している大学等の意見も聴取

・大学関係者が会議に参画する表現にしては如何か

(上記意見への考え方)

→連絡調整会議は実務的なところであり、観測点の具体を議論する場。一方で、今後の計画に記述した観測点配置の方針を検討する場では、大学関係者が会議に参画し、各火山の理想的な観測点配置を検討。

・防災科学技術研究所、気象庁、国土地理院が合同で開催するのか

(上記意見への考え方)

→基盤的な観測網を維持管理している、防災科学技術研究所、気象庁、国土地理院が連携する意図で記述した。具体的な形は三者で議論する必要があると考える。

・火山本部のもとに連絡調整会議を設置し、国としての調整の場としてはどうか